

東京第14期

立志塾

第六講

2022年2月22日(火)

@東京・渋谷区

株式会社ドムスデザイン &
港区 神谷町トラストタワー

感動のある環境は
人を元気にする!
その「感動」を
建物の中に込める



講師 戸倉蓉子

株式会社ドムスデザイン代表取締役／一級建築士

小

学5年生のときにナイチンゲール
と出会った戸倉氏はナースとなり
ましたが、慶應義塾大学病院の小児科病棟
に勤務して3年目、「人間は環境で生き方
が変わる」ことを悟り、「患者さんを心から
元気にする病院を造ろう」と病院を退職、
建築家になることを決心しました。

リフォームの営業職など実地で経験を重
ねたものの、だんだん扱う仕事が大きくな
り、35歳のとき「本場イタリアで勉強しよ
う!」と決意しました。イタリアではミラノの建築大学に留学し
ました。「言葉は本当に苦労しましたが、目
的があつたので何とか周りのみんなと建築
を学ぶことができました。ただ、周りは二十
歳前後の学生で私は35歳、学校帰りにみん
などジェラートを食べていてはマズイと思い、
世界的建築家のパオロ・ナーバさんの門を叩
きました」。

パオロ・ナーバ氏とは日本にいた頃に知りを得
ていましたが、「お金は要りません。とにかく修行させてください!」と訴え、
ナーバ氏のスタジオでも多くを学びました。
戸倉氏は帰国後、日本にもイタリアのよう
な豊かさが必要だと思い、女性だけの建築
士事務所を立ち上げました。

「イタリアのものづくりにはこだわりがあり、設計するよりもまずコンセプト、「何を
したいのか」「どういう気持ちになりたいの



か「そういうことを徹底的にディスカッショングします。それまでの私は、デザインに重要なのは色なのか、形なのか、そういう枝葉の部分に囚われていましたが、それよりも大きな木の根っこから、やらなければいけないと痛感しました。クライアントさんに言われるままに受け入れるのではなく、どんな将来を描きたいのか、一緒に考えてみる。建物は一つの通過点であり、最後にどうなりたいのか、そういうことを深く考えながらいま作つていくことがとても重要だと思いました。帰国後に一級建築士の資格を取ったのも、イタリアの体験が役に立つたと思っています」

その後、群馬に黒沢病院という画期的な病院を造ったり、ベトナムにもドムスインターナショナルという拠点を作るなど大活躍を続ける戸倉氏は最後に次のように述べました。

「意志、志というのは自分自身だと思います。誰かのために自分を生きる、すると何かが自分を応援してくれて、人生が拓けていく。コロナ禍ですが、どんな困難があつても大丈夫です。なぜそう思えるのか、それは多分、小児科で亡くなっていく命をたくさん見たので、自分が生きていれば、命があれば何かできるはずだという気持ちがずっとあります。ナースのときに救えなかつた子供もいるわけで、彼らのためにも環境づくりを通して人を元気にするという仕事を、これからも続けて行けたら幸せです」